

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 378 回 研究会

日時 令和 6 年 9 月 18 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 40 分
場所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール
講師 一般財団法人デジタルスマートシティ推進財団
副理事長兼専務理事 落合 正和 氏
テーマ 「生成 AI の活用とリスク管理」

今回は、一般財団法人デジタルスマートシティ推進財団 副理事長兼専務理事 落合正和様を講師にお招きして、「生成 AI の活用とリスク管理」をテーマにセミナーを開催しました。冒頭に芳仲会長より”生成 AI が近い将来業務効率化をはじめ色々な場面で活躍する社会がやってくると思うので、基本や課題、リスクなどしっかり勉強していきたい”と開会のご挨拶を頂きました。

まず生成 AI についてお話をいただきました。

生成 AI (Generative AI) とは、新しい方法で創造、生成、または合成するように設計された人工知能システムのことです。従来の AI は、予め人間が決めた範囲でしか動かないのに対して、生成 AI は高い柔軟性と創造性を持ち、自分で考えたかのような答えを出すのです。アメリカやオーストラリアに比べ日本の生成 AI 導入率は低く、アメリカ 73.5% に対して日本は 18.0% とのことでした。

次に AI の歴史についてお話をいただきました。

AI は、1950 年代後半に開発が始まり第 1 回 AI ブームが起きました。そして、現在は 2000 年代後半からの第 3 回 AI ブームが続いています。このブームは、深層学習の登場によって火がついたものです。インターネットを利用する人が増え、インターネット上のコンテンツが大量に増えて大量のデータを生み出し蓄積することを可能にしたことにより従来の AI では不可能だったレベルの精度と性能を実現しました。そして 2022 年 11 月にチャット GPT の出現によりブームがさらに加速しています。

日本では多くの方が生成 AI を検索エンジンと間違えて解釈していますが、別物であるとのことでした。アイデアの生成、要約や情報の整理、文章作成の支援などに活用するのが適切とのことでした。

次に実際に PC にて生成 AI について実際に使用いただき、AI が日常生活やビジネスに不可欠なインフラになりつつあると説明いただきました。今後はオンデバイス AI の普及が鍵になるとのことです。クラウド上で処理することが多かったのが、スマホやパソコンの端末内で処理できるようになり、既に実装されたサービスが市場に出始めているそうです。

AI による個人情報の流出について、100%大丈夫と言い切れないところがありますが、インターネットの方が危険とのことでした。

生成A Iについてはいろいろな課題があります。

まず、著作権や知的財産権について法整備が追いついていないのが現状だそうです。そして、依存しすぎると思考力や創造性の低下させる可能性があります。悪用するものが現れるかもしれません。A Iの進化により予測できない状況になるかもしれないとのことでした。

私たちが気を付けないといけないのは、倫理観をもった使い方をしないといけないとのことでした。A Iの回答を鵜呑みにするのではなく吟味することが必要です。A Iを活用できる人とできない人の間で格差が生まれる可能性を指摘されていました。

生成A Iは、会員の皆様の会社にとっても大変関心の高いテーマですので、講義が終わってからも、多くの質問が寄せられました。落合先生、貴重なご講義をありがとうございました。

以 上



芳仲会長 ご挨拶



講師 一般財団法人デジタルスマートシティ推進財団
副理事長兼専務理事 落合 正和 氏